

3 学期終業式講話

おはようございます。

本日で3学期が終了いたします。そして本年度一年間の終了の式となります。

この1年を振り返ってみていかがだったでしょうか。私自身は公私ともに色々なことがあった1年間でした。

そうした中で、富士市立高校に入学してどれだけの人たちと会って、人間関係が作れたでしょうか。本校1学年6クラス規模でしたので、5、6クラスある中学校から来た方はさほど感じなかったかもしれませんが、1、2クラス規模の中学校から来た方は圧倒されたと思います。今年の卒業生は198人でしたが、新入生は243人ですので50人が増える学校規模となります。子どもの数が年々減る中で、人付き合いも年々減っているのは事実です。

先日、私の町内会で組長の引継ぎがありました。今の所に住んで30年ほどたちますが、初めて隣の家にあがりました。私の子ども時代は隣の家にあがりこんだり遊んだりしましたが、最近はそのような光景が少なくなっています。

皆さんがこの1年間の友人関係で裏切られたりしてつらい思いをした方もいらっしゃると思いますが、これから生きていく中でどこかで許してあげられるような度量といいますか、気持ちをもってあげるといいかと思います。それはもしかしたら今ある仲間の誰かがすごく有名になった時に、かつて自分の友人でしたよといえたらいいなと思います。

もしかしたら今のクラスに将来のJリーガーやプロ野球選手が生まれるかもしれません。メジャーリーガーに行く人が生まれるかもしれません。実は今現在凄い才能を持った人がいるかもしれません。事実本校の先生方の中にも、ネットのウィキペディアに載っている先生が2人いらっしゃいます。

私自身の体験の中で、高校時代3年生のクラスを思い出します。世界史科目を選択したために女子生徒のいない男組になりました。1クラス48人が全て男という暗黒の1年間を過ごしました。この中に2人の野球部員がいました。当時の私の高校の野球部は弱くて、甲子園出場どころから選手権県大会2回戦負けでした。そんなレベルの高校でしたが、2人はそれぞれ六大学の慶應大学と立教大学に進学し、そこで野球漬けとなりました。野球が大変好きで、そのまま社会人になっても野球を続けました。

その後どうなったかといいますと、2人はプレーヤーというよりも野球を勉強してそれぞれが社会人野球の監督となり、大会で戦ったりもしました。そして最近2人は六大学のそれぞれの出身大学の監督となりました。

高校時代2人を見ていると考えられないことですが、その頃はまさか将来六大学野球の監督となるとは思いもしないことでした。もちろん2人は練習もよくやっていたが、私の身近にもすごい才能を持った人がいたということの一例です。

私は友人は一人でも二人でも多いといいなと思っています。人間は支えられて生きていく動物であり、お互いに支えあう友人をこれからも是非作ってほしいと思っています。

高校時代の友人はかけがえのない宝です。富士市立高校在学中にそのことを是非頭に入れて友人を大切にしてください。

この春休み中に来年度の目標を是非たててほしいと思います。新たな気持ちで4月にお会いしましょう。以上で校長講話を終わります。

(令和6年3月19日、終業式)